

地域おこし協力隊活動報告プレゼンテーション

地域おこし協力隊 溝口真矢



溝口真矢 経歴

- ・ 1975年鳥取県米子市生まれ。幼少期を東京、横浜、ボストン、シドニーと転々としながら育つ。
- ・ 1999年慶應義塾大学商学部卒業後、17年間会社員として勤務。
 - 産業部品メーカー 7年（シンガポール駐在 6年）
 - ビデオゲームメーカー 2年
 - アメリカITコンサルティング会社 8年
- ・ 39歳で音楽家としてロサンゼルスを拠点にプロに転身。2016年度グラミー賞ノミネート。
- ・ 2019年、13年間の米国在住から日本帰国。音楽活動の傍ら、メンタルヘルス/社会問題に関する執筆やワークショップなどにも従事。
- ・ 2022年、神奈川県相模原市の限界集落にあるエコビレッジに半年滞在。「半農 半X」をベースとしたコミュニティを経験。
- ・ 2023年4月に秋田仙北市 (田沢湖) に移住。地域おこし協力隊リトリート担当に就任。
- ・ 2024年10月よりリトリート事業を本格始動。リトリートハウスイーグルをオープンし、主にアーティスト・イン・レジデンスを軸にした長期滞在プログラムを展開中。



これまでの人生の学び

- ・ 持続可能性のある生き方とそのための環境の選択が大事。
(心身の健康維持が可能な場所、水源・農地の近くで生きる)
- ・ やりたいことや生き方は、時代や土地に合わせた柔軟性が必要。生活費が下がることで、生きる糧を得るための時間やリソースが効率化し、結果的に柔軟性が生まれる。(地域に本当に必要なことに使う時間も増える)
- ・ 経済効果を最終的に生むようなコミュニティの種まきは、経済的価値とは離れたところで生まれる。
→**地域おこし協力隊としての活動の原点**

私が考える地域おこし協力隊の役割

- 関係人口創出の種まき
- 地方移住は、人生を左右するほどの大きなイベント。潜在的移住者、長期滞在者ひとりひとりの視点に立って、「生活者の目線でイメージできる地域の魅力を伝える活動。」
(と同時に、地域の方にとって、どんな移住者が来るかも大きな問題。地域にフィットしそうな人を誘致する)
- なかなか伝わりにくい、ふわっとした地域の深い魅力を、外から見た視点で定義し、訪問者や潜在的移住者に深く伝わるようにするための「翻訳者」

観光

アウト
ドア

伝統
文化

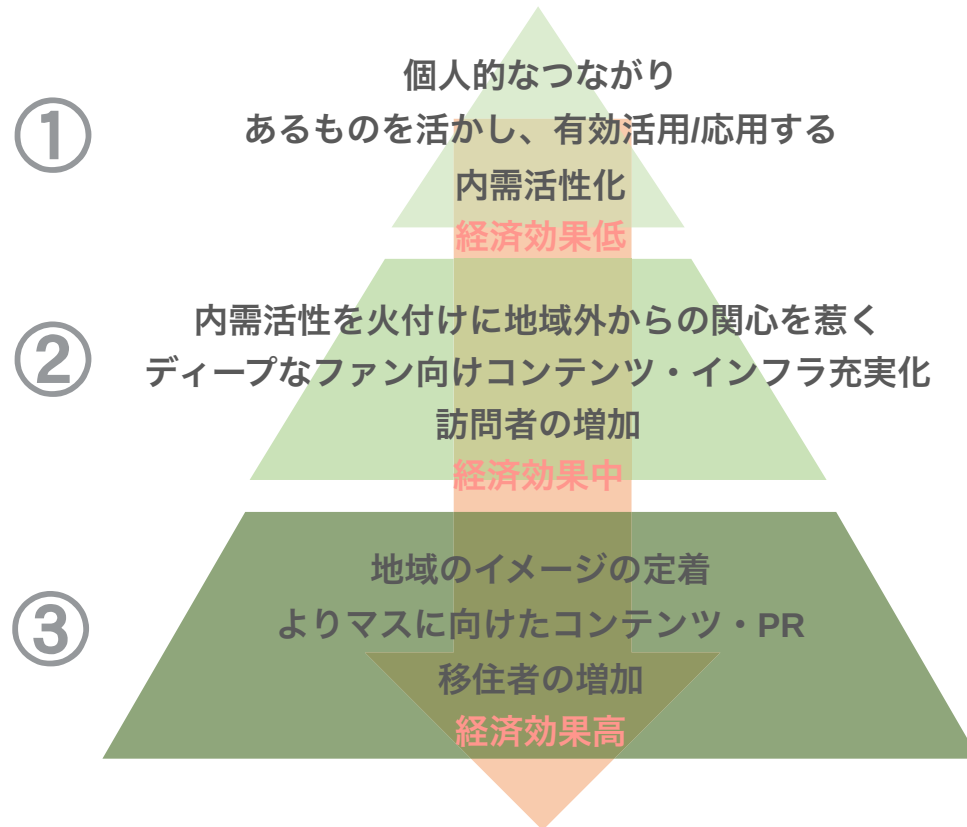
農家
民宿

リト
リート

- 地域の「純粹」で「ありのまま」のよさを、「輪郭」をつけることで可視化させる



地域おこし協力隊活動展開イメージ



- 地域の生活にとけこむ
 - 外の人を少しずつ混ぜて、化学反応を見る
- ↓ ↑
- 具体的な活動に落とし込む

- ①の活動を統合し、場づくり、体験づくり、事業などを通して具現化
- 地域の魅力・活気が、感度の高い層に外から自然に見える・伝わるようにする

- ②で具現化したものが、地域の特色のひとつにまで昇華

地域おこし協力隊一年目の取り組み

- 地域の人に楽しんでもらう

- 数々の音楽イベントを企画開催（DJ Train、音浴イベントなど）
- 住んでいて楽しい感を可視化、県内市外に遊びにきてもらう

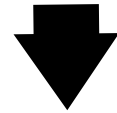


- 長期滞在が可能な訪問者の受け入れに集中

- 個人的なつながりから、国内外から年間60人の訪問者受け入れ。うち8名の移住につながる。
- 一人旅、場所にとらわれない仕事の従事者、県内の市外在住者
- 多くのアーティスト・表現者を招待

現在・今後の取り組み
(リトリートによる地域活性)

リトリート (癒し) x 創作活動 x 地域交流



独自のアーティスト・イン・レジデンス (創作合宿)

リトリート＝

- 日常生活から離れてリフレッシュする時間を持ち、心身ともにリセットする
- 内省
- 転地療法



田沢湖アーティスト・イン・レジデンス特徴

- 10日間滞在の創作合宿
- ①癒し ②自然の力に生かされる体験と学び ③気づきの言語化・表現化の3段階によるプログラム
- 地元の食材や湧水による食事、近隣温泉による湯治
- 2泊の農泊体験込み
- 滞在中、参加アーティストによるライブや個展を開催し、地域の人を招待
- 地域の伝統音楽家やアーティストとのコラボレーション
- 作品やSNSを通して、地域や体験の感動をファンに広げてもらう

創作



癒し・整え



体験・交流・学び



イベント



なぜアート・アーティストなのか

- ・ リトリートにより心身の緊張をほぐし、感性を高めることで、地域の魅力をより感じやすくなったり、創作のインスピレーションが高まったり、生き方や創作のアプローチの見直しによりオープンになる。地域の魅力の深い部分への感度・感性が高い。
- ・ 表現活動を通して、地域交流や地域のPRがしやすい。



なぜアート・アーティストなのか

- 生活環境を柔軟に変えられる潜在移住者（個人事業主・フリーランス）の取り込み。
 - ✓ アート活動の他に、生活を支えるための「手に職」をもっている人が多い
 - ✓ 生活の場を仕事に縛られていないため、都市部での生活環境への依存度が低い
 - ✓ 「なんもない」ところから何かを生み出す原動力（経済的価値以外の魅力への感度）



なぜアート・アーティストなのか

- 秋田が秘めた唯一無二の魅力: 特異な地理的条件が生み守ってきた**独自の文芸・文化(環日本海文明への扉)**

「古来、蝦夷と大和朝廷の境界に位置した秋田は、松尾芭蕉が『奥の細道』で辿り着いた北の到達点にして、日本海特有の哀愁を漂わせる、歌枕の聖地であった。」

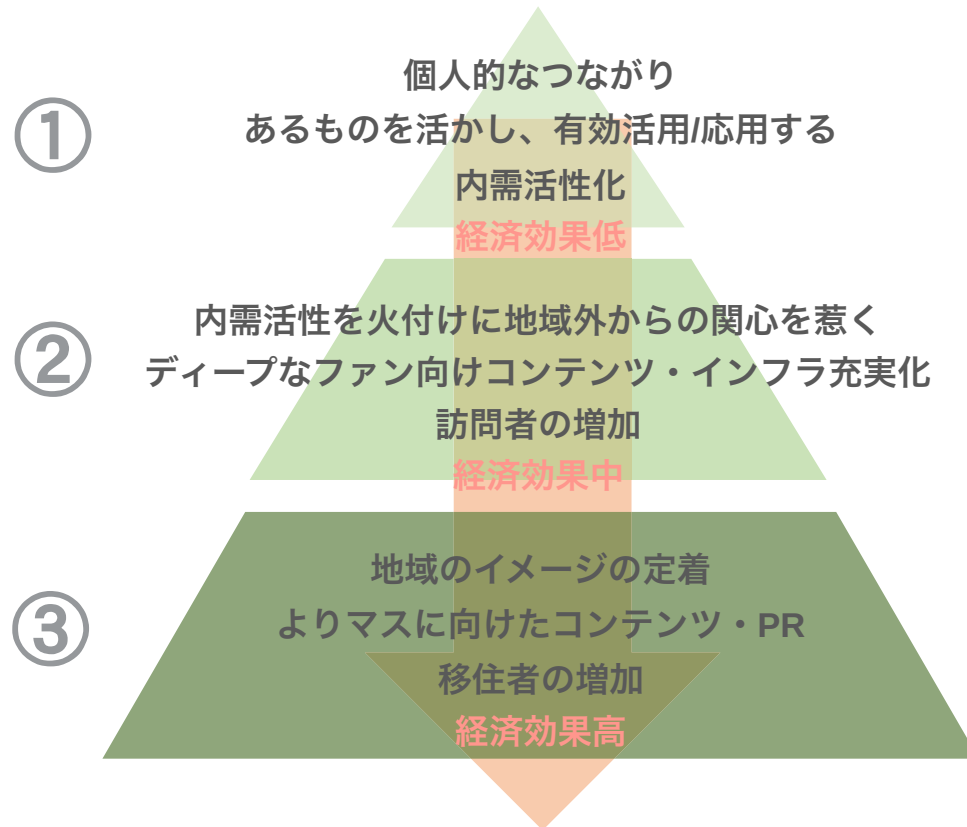
「文明の行き止まりとされたその地こそ、日本海以北の海を挟んで、大陸や島々の人々が行き交う北方民族たちの文化ネットワークへの玄関口であった。」

秋田 環日本海文明への扉 伊藤俊治著 亜紀書房 より抜粋



- ◆ 文芸、アートの聖地としてのポテンシャル
- ◆ あまり知られていない深い「日本」を求めるディープな日本ファンの観光客の取り込み
- ◆ 自然 x 観光 x 伝統文化財 x リトリート = アート (仙北市のPRの新しい複合的切り口)

地域おこし協力隊活動展開イメージ



- 地域の生活にとけこむ
 - 外の人を少しずつ混ぜて、化学反応を見る
- ↓ ↑
- 具体的な活動に落とし込む

- ①の活動を統合し、場づくり、体験づくり、事業などを通して具現化
- 地域の魅力・活気が、感度の高い層に外から自然に見える・伝わるようにする

- ②で具現化したものが、地域の特色のひとつにまで昇華

仙北市の活性化のためにこれからも注力していきたいと思います。
引き続き、ご指導とご鞭撻をよろしくお願いします！

ご清聴ありがとうございました！

